

タリ、枝梢ニ生ズ、別ニ栗越ノ如キ者枝間ニ生ズ、或ハ單生或ハ簇生、其刺柔ニシテ人ヲ刺サズ、初メ綠色、秋ニ至テ茶褐色、是蟲ノ巣ニシテ實ニ非ズ、破レバ内ニ堅キ核アリ、綠色ノ時コノ核ヲ破レバ内ニ一ツノ小長白蟲アリ、褐色ノ時破レバ一ツノ小蜂アリ、此巣ヲオホヂノフグリト云同名
 リア一名シバフグリ、播州サルノモモ同上カラメノフグリ、右州ナラゴウ筑前此ノ巣ヲ採リ煎ジテ黒色ノシタ染トス、コノ木ハ集解ニ謂ユル枹ナリ、一名勃落樹肉蓴蓉ノ集解李落葉鎮江府志

〔牛馬問〕或人の曰、五月櫻チマキをつゝむかしはといふものも、此種類○の類歟、答て曰否、それは櫻コクの類

にて、大葉櫻レキといふ有和名ナラガシワといふもの、事歟、

〔佐渡志五物產櫻 方言カシハギ

山中ニ多シ葉ノ大サ四寸バカリ、長サ六七寸、花ハ栗ニ似タリ、實ヲ結ブモノアリトイヘドモ、ココニハ稀ナリ、

〔古事記仁德〕大后爲將豐樂而於採御。綱柏幸行木國之間、天皇婚八田若郎君女、於是大后御綱柏積盈御船還幸之時、所駆使於水取司吉備國兒島之仕丁、是退己國於難波之大渡遇所後倉人女之船、乃語云、天皇者皆婚八田若郎女而、晝夜戲遊、若大后不聞看此事乎、靜遊幸行爾其倉人女聞此語言、即追近御船、白之狀具如仕丁之言、於是大后大恨怒載其御船之御綱柏者、悉投棄於海、故號其地謂御津前也、

〔古事記傳三十六〕御綱柏造酒司式大嘗祭供奉料に、三津野柏二十把ツナカシハ、八長女柏四十八把ナガメハ、六把ヌガとあり、二十把は二十四把ナシハなり、同東宮料にも如此あり、大嘗祭式に酒柏の事所々見えたり、大神宮儀式帳六月祭條に、云々即大神宮司諸司官人等更發、第五重參入就坐、即倭儻仕奉先大神宮司、次禰宜、次大内人、次齋宮主神司諸司官人等二人侍、御角柏盛人別給、云々また九月祭條にも、云々其直會酒波采女二人第四御門東方侍氏御角柏盛氏人別捧給、此事大神宮式にも見え、